



洞爺湖有珠山ジオパーク ユネスコ世界ジオパーク再認定審査

現地審査対応報告書

Revalidation of the UNESCO Global Geopark
for the Toya - Usu UNESCO Global Geopark

2019（令和元年）年 7 月 25 日～7 月 29 日

北海道伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町
洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会

■ 審査の概要

洞爺湖有珠山ジオパークが加盟しているユネスコ世界ジオパークネットワークは、認定地域に4年に1度の再認定審査を義務付けておりますが、洞爺湖有珠山ジオパーク（2009.8.22 認定）は前回（2017年7月）の再認定審査で2年の条件付き認定を受けました。今回は3回目となる再認定審査（現地審査）が、2019年7月25日～29日まで行われました。

審査では、ユネスコ世界ジオパークから派遣された2名の審査員が、各見どころ（ジオサイト）や関係施設を訪れ、ユネスコの評価基準に基づき調査を行いました。

審査終了後の講評では、審査員より、当ジオパークがより充実したものとなるためのアドバイスとして、ジオパークの名称に関する表示の統一、マスタープランのアクションプラン、アイヌ民族の言語をとりあげた書籍の出版、国際協力の推進、ジオサイトの保全等について改善項目が挙げられましたが、活火山と長く共生している当地域の歴史、減災文化、研究活動、火山マイスター人材育成について高い評価を受けました。

審査員2名はこの現地調査の報告書をユネスコのジオパーク担当部局に提出し、本年9月の「ユネスコ世界ジオパーク評議会会議」で審議され、認定に可否は2020年2月頃までに通知される予定です。

■ 現地調査 審査員

○ パトリシオ・メロー 先生（ブラジル） Prof.Dr.Patricio Melo, Brazil



仕事：・アラリペ UGGp 事務局長
・カリリ地域大学学長
・世界ジオパークネットワーク執行委員会委員

在籍ジオパーク：アラリペユネスコ世界ジオパーク

ブラジル北東部のセアラ州に位置し、2006年に世界ジオパーク認定を受けた。古生物学の研究が進んでいて、特に白亜紀前期（約1億2千万年前）の化石の産地として世界的に有名な地域。先カンブリア紀、古生代、中生代の化石の他、地域の先住民族の歴史文化についても普及活動を行っている。

○ ヘニング・ツェルマー 先生（ドイツ） Dr.Henning Zellmer, Germany



仕事：ハルツ・ブラウンシュヴァイガー・ラント・オストファーレン UGGp の地質学者

在籍ジオパーク：ハルツ・ブラウンシュヴァイガー・ラント・オストファーレンユネスコ世界ジオパーク

ベルリンから西へ約240 kmに位置し、2005年に世界ジオパークの認定を受けた。古生代の堆積岩・火成岩でできたハルツ山脈と、その北側にある、化石を多く含むブラウンシュヴァイガー・ラント地域で構成されている。ハルツ地方の鉱山は約1000年の歴史があり、産出する鉄鉱石や岩塩、石油等がドイツの産業を支えてきた。

■ 全体スケジュール

7月25日(木) (審査員移動日)

11:55 新千歳空港到着

15:00 ホテル着

7月26日(金) 視察1【テーマ：火山のサイト・施設】

8:20 真屋会長との顔合せ
9:10 協議会プレゼンテーション①(有珠山ロープウェイ)
9:37 有珠山ロープウェイ
10:45 洞爺湖有珠山ジオパーク火山村情報館
11:20 洞爺湖温泉観光協会
11:30 協議会プレゼンテーション②(大地の恵み展会場)
12:10 大地の恵み展案内
12:45 昼食(わかさいも)
13:40 洞爺湖ビジターセンター/火山科学館
14:30 西山山麓散策路北口～南口
18:30 構成市町の首長による歓迎夕食会
20:30 終了

7月27日(土) 視察2【テーマ：文化/自然サイト・施設、無形文化財】

8:30 審査資料の確認
10:25 協議会プレゼンテーション③(302会議室)
12:00 昼食(Eスプーン)
13:00 だて歴史文化ミュージアム
13:30 宮尾登美子文学記念館
14:00 そうべつくだもの村 浜田園
15:00 そうべつ情報館 i・火山防災学び館
16:20 三松正夫記念館
17:45 夕食(ブルスタ)
19:40 洞爺夏祭り見学
21:20 終了

7月28日(日) 視察3【テーマ：ジオパークの恵み】

8:45 足湯・ウェルカム看板 確認
9:30 豊浦海岸・船のガイドツアー
12:00 ホタテ養殖説明
12:20 昼食(しおさい)
13:45 ウィンザーホテル
15:00 かわなみ
16:00 有珠善光寺
17:30 終了

7月29日(月) 審査員講評

9:15 審査員講評
10:15 審査終了

■ スケジュール

8:20 真屋会長との顔合せ

9:10 事務局によるプレゼンテーション①

発表：西 勇樹 学術専門員 『洞爺湖有珠山ジオパークの地質概要とジオサイトについて』

9:37 山頂駅～火口原展望台～南外輪山トレイル 視察 説明：荒町美紀 火山マイスター

10:45 洞爺湖有珠山ジオパーク火山村情報館 視察 説明：飯田 理 ワカサリゾート(株) (火山マイスター)

11:20 洞爺湖温泉観光協会 視察 説明：藤岡 綾 洞爺湖温泉観光協会スタッフ（火山マイスター）

11:30 協議会プレゼンテーション②（大地の恵み展会場）

発表 中谷 麻美 事務局員 『2017-2019 ジオパーク活動進捗状況』

12:10 **大地の恵み展案内** 説明：武川 正人 事務局長

12:45 昼食（わかさいも）

13:40 洞爺湖ビジターセンター/火山科学館 視察 説明：金子 朗 国立公園管理官

：杉上 繁雄 火山科学館 館長

14:30 西山山麓散策路北口～南口 視察 説明：江川理恵 火山マイスター

18:30 構成4市町長、学識顧問との懇談会（歓迎夕食会・TOYA 乃の風リゾート）

20:30 終了

■ 26日 写真



真屋会長との顔合わせ



協議会プレゼンテーション①



火口原展望台で有珠山の説明



銀沼火口の説明



火山村情報館の説明



洞爺湖温泉観光協会の説明



協議会プレゼンテーション②



大地の恵み展の説明



洞爺湖ビジターセンター/火山科学館の説明



大グラバーンの説明



旧菓子工場の説明



旧とうやこ幼稚園の説明



歓迎夕食会



歓迎夕食会

2日目(8/27(土)) テーマ【文化/自然サイト・施設、無形文化財】

8:30 審査資料の確認

10:25 協議会プレゼンテーション③ (302会議室)

説明: 黒田聖乃 伊達緑ヶ丘高等学校教員 (火山マイスター) 『有珠山周辺の植生と教育』

: 三谷智宏 洞爺湖町教育委員会 学芸員 『噴火湾沿岸の縄文文化』

: 畑 吉晃 事務局員 『洞爺湖有珠火山マイスター制度について』

12:00 昼食(Eスプーン) 説明: 高田真次 伊達市企画課長

13:00 だて歴史文化ミュージアム 視察 説明: 伊達元成 伊達歴史文化ミュージアム学芸係 学芸員

13:30 宮尾登美子記念館 視察 説明: 伊達元成 伊達歴史文化ミュージアム学芸係 学芸員

14:00 そうべつくだもの村 浜田園 視察 説明: 森近恭子 火山マイスター

15:00 そうべつ情報館i火山研究資料室 視察 説明: 岡田 弘 学識顧問(北海道大学名誉教授)

16:20 三松正夫記念館 視察 説明：三松三朗 三松正夫記念館館長 （火山マイスター）

17:45 夕食（ブルスタ）

19:40 洞爺夏祭の見学 説明：小川裕司 ガイド委員会委員長 （火山マイスター）

21:20 終了

■ 27日 写真



審査資料の確認



協議会プレゼンテーション③



協議会プレゼンテーション③



協議会プレゼンテーション③



E スプーンにて災害時のための食糧備蓄の説明



だて歴史文化ミュージアムの説明



浜田園にて大地の恵みについて説明



浜田園のさくらんぼ狩り



火山防災学び館にてハザードマップについて説明



有珠山の噴火史について説明



三松記念館について説明



昭和新山をバックに集合写真



洞爺夏祭り



洞爺夏祭り

3日目 (8/28(日)) テーマ【ジオパークの恵みと自然】

8:45 足湯・ウェルカム看板 説明：加賀谷にれ 事務局員

9:30 豊浦海岸・船のガイドツアー 視察 説明：田中博子 噴火湾とようら観光協会
：渡邊つづり 豊浦町教育委員会 学芸員(火山マイスター)

12:00 ホタテ養殖説明 説明：田中博子 噴火湾とようら観光協会

12:20 昼食(しおさい)

13:45 ウィンザーホテル 説明：川南 恵美子 火山マイスター

15:00 かわなみ 説明：川南 恵美子 火山マイスター

16:00 有珠善光寺 説明：川南 恵美子 火山マイスター

17:30 終了

■ 28日 写真



豊浦町と噴火湾の説明



豊浦観光ツアー



ホタテの養殖の説明



洞爺湖の風景について説明



有珠善光寺自然公園



有珠善光寺

4日目(8/29(月)) 現地審査講評

■ スケジュール

9:15 審査員からの現地審査講評 洞爺湖町役場 防災研修ホール

10:00 メディア取材

10:45 役場出発 (審査員 新千歳空港へ移動)

<終了>

■ 29日 写真



審査の講評



審査の講評



審査員へプレゼント



集合写真

ユネスコ世界ジオパーク再認定審査 2019

審査員講評（概要）

日時 2019（令和元年）年 7 月 29 日

会場 洞爺湖町役場

※この講評は、現地審査員による審査終了時点の感想であり、正式な指摘事項を含む審査可否については 2020 年 2 月頃までに通知される予定です。

審査員コメント（要約）

【パトリシオ・メロー教授】

日本を訪れるのは 2 回目ですが、この国の魅力は変わりません。人々は優しく、食は他のどの国よりも素晴らしいです。

しかし、他のユネスコ世界ジオパークと同様、ここでも文化的なアイデンティティと独自の地質的特徴をもつ地域の発展を促進するための課題があります。例えば、a) ボトムアップ式の活動による運営 b) 地元の声を聞くこと c) 基礎教育・健康・安全などの要求に応えられるような予算枠組み d) 運営チームと地元指導者間の利害バランスをうまく維持すること などです。

ユネスコ世界ジオパークのメンバーであれば、こうした課題に対処することができますが、イエローカードを与えられると、活動に不安を感じることがあります。

一昨年の再審査では、教育・インフラ・視認性・計画・コンセプト・マーケティングなど、数多く、多岐に渡る勧告が出されていましたが、この再審査期間中、ヘニング氏と私は、ジオパークで唯一無二の経験をさせていただきました。

- 貴ジオパークの受け入れ体制には私たちへの共感がこめられており、それによって通常の日本滞在以上に手厚くもてなしていただきました。
- 勧告事項への対応は、及第点に達しています。前回の審査結果の発表から、今回の再審査までの期間が比較的短かったことを考えると、むしろ私たちの期待を上回っていました。
- 勧告事項への想定以上の進捗がありました。ジオ製品やインフラ面、またコンセプトの見地からは地質と文化の融合、有形／無形文化の融合、伝統と技術の融合で、革新的な活動がみられました。
- 火山マイスター制度は、他のユネスコジオパークにもっと伝えるべき価値があります。訪問者にも、様々な言語で、自然災害による損害を防ぐ重要性を伝えてほしいと思います。

この数日間、皆様から多くのことを学びました。私の拠点であるアラリペ・ユネスコ世界ジオパークは洞爺湖有珠山ジオパークと違い、水が豊富とは言えない、ブラジル北東部の半乾燥地域にあるジオパークです。これまで恐竜、虫、植物、白亜紀のトンボ（Pterosaurs）といった化石が発見されています。半乾燥地域でありながら熱帯雨林が存在し、地域固有の鳥をはじめ豊富な種類の生物が生息しています。また、「地域の人々により良い生活を」という、皆様と同じ夢と課題を持っています。

今回の審査について、ユネスコ世界ジオパーク協議会へ報告書を提出しますが、その中で『洞爺湖有珠山ジオパークは真のユネスコ世界ジオパークであり、ユネスコ世界ジオパークであり続けるべき』と提案します。次回再審査までの活動がうまくすすむようお願いしています。

【ヘニング・ツェルマー博士】

まずは、今回の素晴らしいプログラムを提供していただいたことに感謝申し上げます。皆様が非常に活発に活動されていること、市町長もジオパークに積極的に関与していること、火山マイスターネットワーク活動等について、感銘を受けました。

洞爺湖有珠山ジオパークは、開発と減災の面でとても重要な役割を果たしていると思います。審査の中で、洞爺湖有珠山地域の火山活動、火山災害そして火山活動によってもたらされた大地の恵み、有形遺産と無形遺産のつながりを学びました。

私たちが検討した結果、洞爺湖有珠山ジオパークは全世界から見ても重要なジオパークであると考えます。前回の審査からわずか一年半で、15項目の指摘事項に対処したことを、高く評価します。

今後の洞爺湖有珠山ジオパークの発展を祈って、勧告事項を5つ提案させていただきます。

(1) ジオパークの名称の統一について

今回の審査でも古い名称 (Toya Caldera and Usu Volcano UNESCO Global Geopark) がついた看板が多くありました。新しい正式名称 (Toya-Usu UNESCO Global Geopark) のテープを看板に貼るなど、対策を行ったほうが良いと思われます。

(2) アクションプランについて

形式的なことですが、マスタープランにアクションプランを含めていただきたいと思います。

(3) アイヌ民族について

ここ数年間で博物館などに非常に大きな進捗がありました。これに加えて、アイヌに関する出版も是非行っていただきたいと思います。

(4) 国際協力について

中国のジオパークや地質学者の連携協力について、深く感銘を受けました。今後は世界のジオパークのガイド間の連携を行っていただきたいと思います。火山マイスターシステムは素晴らしいシステムであると思いますので、インドネシアを含めたアジア太平洋地域のガイドの皆様と積極的に交流を行っていただきたいと思います。

(5) ジオサイトの保全について

これまでに尽力していただいていると思いますが、可視性や視認性をさらに高めていただきたいと思います。特に災害遺構の保全はこのジオパークにおいて非常に重要な任務だと思います。また、今後も防災教育や野外学習、イベントなどを通じ、人々にジオパークを広めていただきたいと思います。

最後になりますが、洞爺夏祭りは非常に良い無形遺産であると感じました。ジオに限らず、日本独自の無形遺産も是非活用していただきたいと思います。皆様の心からのおもてなしに感謝いたします。ありがとうございました。